

なすまどか議員が一般質問を行いました



被災者支援制度の充実・新設を要望

8月30日、日本共産党市議団を代表して、なすまどか議員が一般質問を行いました。

7月12日の豪雨災害後、被災者からの聞き取りをもとに、生活再建にむけた支援制度の充実や新設を要望。さらには、水害地点での現地調査を踏まえ、今後の治水対策などについて質問を行いました。



避難指示の遅れで被害を拡大させた市の責任は重い

今回の豪雨災害では、熊本市による避難指示の遅れなど初動対応に大きな問題がありました。なす議員は、水防本部が、消防局や県との情報共有ができなかったことなど問題点を指摘。幸山市長に対して、「避難指示の遅れにより拡大した被害は人災ともいえる。まずは、被害に

遭われた市民に謝罪をするべきだ」と質しました。

幸山市長は、「検証部会からの勧告などを受け、詳細に検証したい。避難指示が遅れたことは申し訳なく思う」と答えたものの、市民への謝罪の言葉はありませんでした。

住まいの確保・住宅再建にむけた制度の拡充を！



現在、家を失った方に対して民間住宅を借り上げる制度がありますが、原則全壊の方しか支援対象となっていない。なす議員は、半壊も含め実際に家に住めない人がたくさんいるなか、家を失った被災者が

支援制度を受けられるよう市独自に制度を創設するよう求めました。

また、最大300万円の生活再建支援制度についても、増額を国に求めると同時に、県と連携し上乘せ制度を創設するよう求めました。

日本共産党 市議会だより

発行：日本共産党熊本市議団

ますだ牧子 上野みえこ なすまどか

熊本市中央区手取本町1-1 議会棟 ホーム：<http://www.jcp-kumamoto.com/>

NO. 816

2012年9月

電話 328-2656

FAX 359-5047

メール：kumamsu@gamma.ocn.ne.jp

政令市中最も低い熊本市の災害見舞金

支給対象の拡大と見舞金の増額を！



なす議員は、「日本一暮らしやすいまちを目指すというならば、住民が一番困っているときにどう手を差し伸べるかが問われている。見舞金の金額を増額するとともに、粘土状の泥が堆積し復旧に困難をきたした床下浸水も見舞金の対象とするべきではないか」と拡充を要望。市からは「義援金の配分も実施されていることから現

時点での拡充や増額は考えていない。今後の検討課題としたい」と冷たい回答しかありませんでした。

熊本市の災害見舞金は、政令指定都市20市の中で、最も低い水準となっています（詳細は下表）。せめて、失った冷蔵庫や洗濯機など生活に必要な最低限の家電などが購入できる水準が必要です。引き続き、拡充を求めていく決意です。

災害見舞金の政令市の上位5市と熊本市との比較

金額順	都市名	全壊	半壊	床上浸水
1	広島市	30万円	10万円	5万円
2	大阪市	10万円	5万円	5万円
3	浜松市	(5人まで) 10万円 (6人～) +2千円/人	(5人まで) 5万円 (6人～) +1千円/人	2万円
4	静岡市	10万円	5万円	2万円
5	名古屋市	(単身) 7万円 (複数) 9万円	(単身) 5万円 (複数) 7万円	(単身) 3万円 (複数) 5万円
最下位	熊本市	2万円	1万円	5,000円

被災者の実態に即した支援制度の拡充を！

そのほか、ボランティアに依頼できず、床下の泥出しを業者に頼まざるを得なかった住民への撤去費用への援助、畳替えは、住民税の非課税世帯しか対象となっておらず、実態に即して改善するよう求めました。



ダムは想定外の洪水に対応できません！立野ダムによらない治水対策を！

一般質問では、幸山市長が7月20日に国交省に建設推進を要望した立野ダムについて取り上げました。

なす議員は、「市民の生命・財産を守る治水対策として、ダムほど不安定で不確定なものはない」と指摘。ダム計画を前提にした河川整備は、想定外の洪水でダムが治水機能を発揮しな

った場合、かえって住民を危険にさらすこと、ダム計画があるがゆえに河川の整備が遅れることなど問題点を指摘し、熊本市も含め流域自治体などによって発足した「検討の場」や住民討論集会などを具体化し、住民参加で、ダムに代わる治水対策を追求することを求めました。

立野ダムとは？

白川と黒川の合流地点である立野峡谷に国土交通省が計画した、高さ約90mの洪水調節専用の穴あきダムです。立野ダムは1983年に事業が開始されましたが、ダム本体工事は長年凍結状態が続き、現在は「できるだけダムによらない」という考えのもと流域自治体などによる「検討の場」により、ダム以外の治水対策（※右下に詳細）についても検証が進められています。



水害は堤防の未設置、川の拡幅工事の未完成、河床の土砂堆積など河川整備の遅れが原因

豪雨による市内の水害についてなす議員は「白川の氾濫や越水は、堤防の未設置地点、川幅の拡幅工事の未完成、河床への土砂の堆積、橋の架け替えの未実施など、河川整備がなされていないことが原因であること」を指摘。国土交通省もそのことを認めていることも示し

ながら、早急な河川整備を国や県に要望するよう求めました。



水害後の現地調査の様子

立野ダムの問題点① 想定外の豪雨では治水効果は発揮できない

なす議員は「想定外の豪雨では、ダムが満水となり流量カットができず治水効果が発揮できない」と指摘。立野ダムがあったと仮定した場合、今回の豪雨に対する具体

的な治水効果について質しましたが、市長からは「今後、国交省により示されるもの」と具体的な回答は示されませんでした。

立野ダムの問題点② 流木や岩が穴をふさぐ危険。土砂の堆積も懸念

水害直後、立野ダム建設予定地では、巨大な岩が流れてきたことが確認されています。ひとたび、岩や流木がダムの穴をふさげば治水効果は発揮できません。

また、土砂が堆積すれば、ダムの治水機能そのものに影響するほか、長期にわたり川の濁りを発生させることも懸念されています。

立野ダムの問題点③ 布田川・日奈久断層上に予定、地盤も弱く危険

立野ダムは、布田川・日奈久断層上に建設が予定されているほか、地盤も弱く、大きな地震が来ればダムの損傷は免れません。

立野ダムの問題点④ 北向谷原始林など貴重な自然を破壊

立野ダム建設予定地の上流には、国指定の天然記念物である北向谷原始林など貴重な自然が存在します。ダムが満水になれば、こうした自然が水没することになり、貴重な自然が破壊されることとなります。

（※）立野ダムにかわる治水対策が具体的に検証されています

現在、「検討の場」では、国交省が示した「河道の掘削」「遊水地」「築堤」「水田の湛水機能の向上」「雨水貯留施設等」「輪中堤」などの組み合わせによる治水対策が検証されています。昨年、パブリックコメントが行われ、現在は意見を取りまとめ中です。